



さりげなさの哲学

10月5日

Sudden Fiction Project

高階 經啓
hirotakashina

10月5日のおはなし「さりげなさの哲学」

本当にどうでもいいようなことが不意に気になって仕方がなくなる日がある。だいたいがとてもつまらないことだ。テレビに出ていたコメンテーターの髪型が少しだけいびつだったことが気になって1日中、その微妙にずれた感覚を思い出していることもある。別にそれをどうこうするわけではない。テレビ局に電話して「今朝のワイドショーに出ていた航空事故評論家の髪型なんですけど……」なんて指摘するわけではない。どうしてあんな髪型になってしまったのか、その歴史に思いを馳せるわけでもない。ただふと気になったことが、そのまま1日中後を引くようなことがあるのだ。人から「何か心配事でも？」なんて聞かれてびっくりすることがよくあるが、大抵はそんなことを考えている。

今日はそれが左手だ。朝歯磨きをしているとき急に「左手は何をしているんだろう？」と思ったのだ。わたしの場合は右利きなので、歯ブラシも右手で持つ。グーで握りしめたり、鉛筆持ちにしたり、細かく持ち替えながら、広い面は大振り、かみ合わせ部分は細かく角度を変えながらやや強めに、歯と歯の隙間や歯ぐきとの境界あたりでは小刻みに震わせるようにしながらかき出す具合に、と右手は大活躍している。では左手は？ と思ってしまったのだ。その間、左手は何をしているんだろう。

その時わたしの左手は親指をジーンズの左ポケットに軽くかけておとなしくしていた。右手が細かい調整を繰り返しながら、技巧の限りを尽くしている間、左手はそれを手伝うでなく、見守るでなく、右手に賛辞を送ったり嫉妬したりすることもなく、何の関心もないかのようにただ左のポケットあたりで退屈そうにしている。わたしは左手に気づかれぬように様子をうかがう。できるだけ歯磨きに集中しながら左手の様子をうかがう。時折リズムを取るようにふっと動くが、それが右手と同調しているのかどうか定かでない。

いったんこうして気になり始めると、いろんな瞬間の左手のことが気になってくる。靴紐を履くとき、基本はやはり右手がめまぐるしく動いているが、実にさりげなくふっとひもを曲げたり調整したりしている。決してこれ見よがしなところはなく、やることをしっかりおさえている。財布をとりだし会計するときも右手がせわしなく動いてお札や小銭を取り出しているときも、全然何もしていないような顔つきで、ふっとサポートしていたりする。それが絶妙な間合いなのだ。

こいつ、できるな。自分の左手をつかまえて言うことでもないが、わたしは感心した。さらに様子をうかがうと、右手が技巧の限りリンゴの皮むきのナイフさばきを見せびらかしている時も、素知らぬ顔をして左手は力を入れたり抜いたり微妙に角度調整したりしている。そういったさりげない立ち位置からすると、運転中にハンドルとギアの間で動き回るのは意外なくらいの活躍ぶりだが、そんな時でさえ決して主役のような顔つきをしない。まるでそこは舞台裏で裏方の仕事をしているような風情なのだ。

カッコいいじゃないか。できることならわたしもそんな立ち居振る舞いを身につけたい。あらためてしげしげと左手を見ようとしたとき、不意に左手が言った。

「勘弁してくださいよ」

「勘弁って、何が」

「そう一日じろじろ見られているとやりにくくて仕方がない」

「ああ。気がついてたか。そりゃあ悪かった。ちょっと目が離せなくなってね」

「そんなことにならないようにいつもやってるのに」

「ああ。目立たないようにするのは意図的なんだ」

「意図的って言うか、もう染みついたもんですからね」

「わかったわかった。じゃあもっと気をつけて見守るよ」

「だめだめ。あんたこっさり見るのが下手くそだもん」

「わかった。もっと慎重にする」

「違うんだな」

「え？」

「慎重にしようとしたらもうダメなんだよ」

「ははあ」

「身体で覚えなきゃ。百万回繰り返して何も考えずにできるようにする。それだけだ」

「わかりました」

そういうわけで、いまわたしは左手的な生き方を体得すべく、何も考えずにこなすことを身につける修行を始めた。左手は滅多に何も言わないが、わたしが「さっきの打ち合わせの相手のシャツとネクタイの取り合わせはなんというか……」などと考え込み始めると、「あんたのその、本当にどうでもいいようなことが不意に気になって仕方がなくなる”オーラ、すごく目立ってるぜ」なんて指摘されることもある。はい、師匠。修行あるのみだ。

(「左手」 ordered by tara-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

感謝の言葉と、お願い&お誘い

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブックログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただけると大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできるのですが、面と向かって星をつけるのはひよっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験

済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上げてまいりましょう。

さりげなさの哲学

<http://p.booklog.jp/book/35039>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/35039>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/35039>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.